

議案第14号

鳥取県公立学校の教員としての資質の向上に関する指標について

鳥取県公立学校の教員としての資質の向上に関する指標について、別紙のとおり議決を求めます。

平成31年3月15日

鳥取県教育委員会教育長 山本仁志

鳥取県公立学校の教員としての資質の向上に関する指標【教諭等(案)】

平成31年4月 日 鳥取県教育委員会

| 職 | | 教諭等・主幹教諭・教頭・副校長 | | | | | |
|------------------------------------------------|-----------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | | キャリア スタート期 (教員養成 完成時・ 採用時) | 育成期(第1ステージ) (1~5年目) | 向上期(第2ステージ) (6~10年目) | 充実期(第3ステージ) (11年目以降) | | |
| 観点 指針の配慮項目番号 キーワード | ステージ | | <p>教員としての必要な基礎的素養・指導技術を広く習得し、実践的指導力を身に付けるとともに、学校組織の一員としての自覚を高める。</p> | <p>第1ステージの経験をもとに、学習指導や学級経営の専門的知識・技能を習得するとともに、得意分野の開発と実践的指導力の向上及び視野の拡大を図る。</p> | <p>第2ステージの経験をもとに、職務に関する専門性をよりいっそう高め、広い視点から学校運営に積極的に参画するとともに、指導的立場としての力量及び管理的立場としての力量(マネジメント能力)を高める。</p> | | |
| | | | | 充実期前期 (11~15年目) | 充実期後期 (16年目以降) | | |
| | 素 養 | ①教諭を担うに 当たり必要となる 素養 | 理解力、教育的愛情 | 児童生徒に対する深い理解と教育的愛情を有している。 | | | |
| | | 専門的知識・技能、指導力 | 教科等に関する専門的な知識・技能と実践的な指導力を有している。 | | | | |
| | | 創造力、対応能力 | 課題解決に向けた柔軟な発想と対応能力を有している。 | | | | |
| 自覚、協調性、倫理観 | | 組織の構成員としての自覚と協調性を有するとともに、教育公務員としての倫理観、及び法令順守の精神を有している。 | | | | | |
| | 教養、人権意識 | 社会人としての豊かな教養、優れた人権意識を有している。 | | | | | |
| 学 習 指 導 (授 業 力) | ②教育課程の編成、 教育の方法及び技術 | 各学校の特色を生かした カリキュラム・マネジメント の実施 | <ul style="list-style-type: none"> 教育課程の編成に関する基礎理論・知識を習得している。 年間指導計画・単元構想・学習指導案 | <ul style="list-style-type: none"> 「学習指導要領」の趣旨・内容を理解し、担当教科・領域の年間指導計画を作成するとともに、児童生徒の実態を把握し、その実態に応じた単元構想や教材づくりに取り組んでいる。 | <ul style="list-style-type: none"> 「学習指導要領」の趣旨・内容を理解し、学年や教科の系統性を踏まえた年間指導計画の工夫・改善を行うとともに、児童生徒の実態や学校、地域の特色を生かした単元構想や教材開発に取り組み、専門性の向上を図っている。 | <ul style="list-style-type: none"> 「学習指導要領」の趣旨・内容を生かし、教科横断的な視点を持って校内の教育課程づくりに携わるとともに、現状分析をもとに学校や地域の特色を生かした単元構想や教材開発を行い、校内研究会等で改善案を提案している。 | <ul style="list-style-type: none"> 校長の示す学校教育目標や学校として目指す方向性、及び教育活動の在り方を踏まえ、学校の特色化・魅力化づくりに積極的に関わっている。 |
| | | 主体的・対話的で深い学 びの実現に向けた授業 改善 | <ul style="list-style-type: none"> 学習集団・指導評価・指導法工夫・授業改善・主体的・対話的で深い学び・情報教育機器(ICT)の活用 | <ul style="list-style-type: none"> 学習指導法に関する基礎理論・知識を習得している。 情報教育機器の活用に関する基礎理論・知識を習得している。 | <ul style="list-style-type: none"> 課題の発見・解決に向けた主体的・対話的で深い学びを実現させるための授業を実践している。 情報機器等を積極的に活用した授業を実践している。 | <ul style="list-style-type: none"> 課題の発見・解決に向けた主体的・対話的で深い学びを実現させるための授業を実践することで、これからの時代に求められる資質・能力の育成を図っている。 情報機器等を活用した教材を開発し、工夫ある授業を実践することで、児童生徒の学びの質の向上を図っている。 | <ul style="list-style-type: none"> 課題の発見・解決に向けた主体的・対話的で深い学びを実現させるための授業を実践するとともに、教科横断的な視点を持って校内における授業改革の推進を行っている。 情報機器等を活用した教材を開発し、工夫ある授業を実践するとともに、他の教員に情報機器等の効果的な活用方法を助言している。 |
| 児 童 生 徒 理 解 ・ 指 導 | ③学級経営④児童及び 生徒理解⑤特別支援教育等 | 児童生徒の理解と学級 経営 | <ul style="list-style-type: none"> 学習集団形成に関する基礎理論・知識を習得している。 | <ul style="list-style-type: none"> 学級経営の具体的な方策を立案し、実行している。 | <ul style="list-style-type: none"> 学級経営において、児童生徒の個別理解を図るとともに、学級集団の状況を把握している。 | <ul style="list-style-type: none"> 学級経営目標に対する現状を的確に分析し、改善に向けた具体的な方策を提案している。 | <ul style="list-style-type: none"> 個々の児童生徒の実態を的確に把握し、担任や学年団の相談役になるとともに、関係機関等との連携を積極的に図ることで、組織的な対応ができる体制づくりに努めている。 |
| | | 教育相談、生徒指導及 びいじめ・不登校対策 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒指導、教育相談に関する基礎理論・知識を習得している。 | <ul style="list-style-type: none"> 教育相談や生徒指導を適切に行う上で必要な理論や技法について理解するとともに、児童生徒の特性や人間関係、家庭環境等を把握し、それらを考慮した指導・支援を行っている。 いじめ・不登校等の課題に対して、関係教職員への報告・連絡・相談を密にして、解決に向けて対応している。 | <ul style="list-style-type: none"> 学年全体の児童生徒一人ひとりの特性や人間関係、家庭環境などを多面的に捉え、個に応じた適切な指導・支援を行っている。 同僚の生徒指導上の悩みを理解し、課題の解決に向けて指導・助言を行っている。 いじめ・不登校等の課題について、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと連携し、課題の解決に向けて組織的に対応している。 | <ul style="list-style-type: none"> 学校全体の児童生徒の実態を的確に把握し、個に応じた適切な指導・支援を組織的に継続して行っている。 学校全体の生徒指導上の課題について教職員間で共通理解を図るとともに、課題の解決に向けて、児童相談所等の関係機関と連携しながら組織的に対応している。 | |
| | | 特別な配慮を必要とする 児童生徒への指導 | <ul style="list-style-type: none"> 特別な配慮を必要とする児童生徒への指導に関する基礎理論・知識を習得している。 | <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の実態把握に基づいた「個別的教育支援計画」、「個別の指導計画」を作成し、一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な指導・支援を行っている。 | <ul style="list-style-type: none"> 関係機関と連携しながら、「個別的教育支援計画」に基づき「個別の指導計画」の作成と活用を行っている。 | <ul style="list-style-type: none"> 組織的な校内支援体制を構築し、関係機関等と連携を図りながら合理的配慮を行っている。 | |
| | | キャリア教育(生き方・進 路指導) | <ul style="list-style-type: none"> キャリア教育(生き方・進路指導)に必要な知識を活用し、児童生徒に将来の夢や希望を持たせる指導を行うとともに、地域や故郷への愛着を育む指導を行っている。 | <ul style="list-style-type: none"> キャリア教育(生き方・進路指導)の重要性を認識している。 児童生徒の実態や学校(学科)の特色、地域の実情など様々な視点から現状を把握するとともに、児童生徒に、「何が出来るようにさせたいか」を具体的に定めている。 | <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の夢や希望及び実態を的確に把握し、キャリア教育(生き方・進路指導)の視点に立って、個に応じた適切な指導を行っている。 | <ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の全体計画や年間指導計画の内容を理解し、その意味を児童生徒に理解させるとともに、系統だった指導を学年団等の組織をまとめながら適切に実践している。 | <ul style="list-style-type: none"> 学校教育目標や学校の目指す方向性を理解し、育成したい児童生徒像を明確に把握しながら、その生き方指導の基本となる全体計画や年間指導計画の構築に取り組んでいる。 |
| 学 校 運 営 ・ 教 職 員 連 携 | ⑥学校運営⑦他の教職員 との連携及び協働の在り方 | 学校安全への対応 | <ul style="list-style-type: none"> 学校教育の社会的・制度的・法律的・経営的理解に関する基礎理論・知識を習得している。 | <ul style="list-style-type: none"> 危機管理体制(危機管理マニュアル)を把握し、児童生徒が安心して学校生活を送ることが出来るための適切な対応や危機の未然防止に努めている。 | <ul style="list-style-type: none"> 危機管理体制(危機管理マニュアル)を把握し、学年や学校全体を広く見渡す視点に立って、過去の事例に学びながら、迅速な対応及び危機の未然防止に努めている。 | <ul style="list-style-type: none"> 危機管理体制(危機管理マニュアル等)を把握し、必要に応じて危機管理体制の点検や改善をしている。 | <ul style="list-style-type: none"> 学校全体の視点に立って、危機の未然防止策や危機発生時の具体的な対応策について、校長に進言したり、教職員に指示したりするなどの対応を行っている。 |
| | | 家庭・地域とつながる力 | <ul style="list-style-type: none"> 地域社会に貢献することについて、自分なりの考えを持ち、実行しようとしている。 | <ul style="list-style-type: none"> 家庭・地域と連携し、児童生徒を共に育てようとする関係を築いている。 | <ul style="list-style-type: none"> 家庭・地域・関係機関等と連携し、組織的な対応をしながら児童生徒の指導を推進している。 | <ul style="list-style-type: none"> 家庭・地域・関係機関等との連絡・調整に努め、必要な情報を収集・発信しながら、学校課題の解決に向けた校内体制を構築している。 | <ul style="list-style-type: none"> 家庭・地域等との連携、調整役として、保護者や地域等の協力を得ながら学校課題の解決に向けた取組を推進する役目として率先して行動している。 |
| | | 組織として連携・協働する 力(同僚、関係機関、 異校種) | <ul style="list-style-type: none"> 集団で業務を遂行する際、自らの役割に応じて適切に行動し、力を発揮している。 | <ul style="list-style-type: none"> 管理職や同僚の指導・助言を受けながら、組織の中における自らの役割や責任を自覚するとともに、その一員としての業務を遂行している。 | <ul style="list-style-type: none"> 同僚と協働しながら適切に業務を遂行するとともに、関係機関・異校種との連携を適切に行っている。 学年や教科等の組織から学校全体を広く見渡す視点に立って、自校の特色について把握し、その特色を生かした実践を行っている。 | <ul style="list-style-type: none"> 学校課題の解決に向けて、関係機関・異校種との連携を計画的かつ積極的に行い、組織力を向上させている。 組織全体について、自己の経験を生かしながら内外の環境要因を広く見渡し、その特色を生かした「チーム学校」(効果的・効率的な組織)としての教育活動を展開している。 | <ul style="list-style-type: none"> 様々な学校課題の解決に向けて、教職員間や関係機関等との連携・協働体制の構築に向けて、校長を補佐しながら「チーム学校」(効果的・効率的な組織)作りに努めている。 教職員の意見を積極的に吸い上げるなど、風通しのよい職場作りに努めるとともに、働き方改革の推進に取り組んでいる。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> 各期(ステージ)において、学校教育目標の達成に向けて管理職及び同僚と協働しながら取り組むとともに、取組の継承や後継者育成を意識しながら業務を遂行している。 | | | | | |

※ 必要に応じて、「児童生徒」は「幼児児童生徒」と読み替える。